

## 会 記

## 日本植物分類学会への合流

植物地理・分類学会 会長 綿野 泰行

植物地理・分類学会 2017 年度大会が 5 月 27 日（土）に、金沢大学サテライト・プラザにて開催されました。その総会において、「来年 4 月から本学会が日本植物分類学会へ合流を行うという」議案が、満場一致で可決されました事をお知らせいたします。

学会の合流に向けた議論の経緯については、2016 年春に行った「植物地理・分類学会の将来構想アンケート」の結果と共に、記事としました（綿野 2016）。その後、日本植物分類学会との交渉を開始し、以下のように会議やアンケートを重ね、今回の総会に至ったこととなります。

2016 年 11 月 30 日	両学会執行部 懇談会（京都）
2016 年 12 月 28 日	両学会雑誌編集委員 懇談会（京都）
2017 年 1 月 17 日～2 月 28 日	学会合流に向けたアンケート実施
2017 年 2 月 9 日	植物地理・分類学会 臨時評議員会（金沢）
2017 年 3 月 9 日	両学会執行部 合流に関する意見交換会（京都）
2017 年 4 月 1 日	植物地理・分類学会 幹事会（金沢）
2017 年 4 月 23 日	日本植物分類学会との合流に関する会員との意見交換会（金沢）

2017 年 1 月～2 月に行われた「学会合流に向けたアンケート」の前文で述べましたが、合流にあたって、日本植物分類学会に本学会誌「植物地理・分類研究」の継続を申し入れております。今年 3 月の日本植物分類学会の評議員会において本件について議論され、「分類」と「植物地理・分類研究」の統合、および「植物地理・分類研究」の名称の継承についての方向性が提案されています。しかし本学会の決定がなされる前に結論を出すのは時期尚早という意見があり、日本植物分類学会が評議員会としての最終結論を出すのは 6 月以降になると聞いています。日本植物分類学会での結論が出次第、またお知らせいたします。

日本植物分類学会の会費は現在 5000 円ですが、来年から 7000 円に値上げされる事が決まっています。「学会合流に向けたアンケート」では“和文誌のみの会員（会費 5000 円）”を設定する案があることが述べられていました。これは、上記 2016 年 11 月の両学会執行部懇談会で行われた議論に基づくものでしたが、その後の日本植物分類学会側での会費についてのシミュレーションの結果、廃案になってしまいました。日本植物分類学会に属さない本学会の会員をなんとかスムーズに合流に導くため、両学会執行部で知恵をひねり、両学会の会計年度の違い（日本植物分類学会が 1 月～12 月、本学会が 4 月～3 月）を考慮して、移行会員については 2018 年度のみ 5,000 円に減免する案が浮上しました。この案も、日本植物分類学会の今年 3 月の評議員会において承認されています（日本植物分類学会ニュースレター No. 65）。

「植物地理・分類研究」の前身である「北陸の植物」が 1952 年に創刊された事をうけ、2012 年大会において 60 周年記念講演会を福井において行った事を、まだ新鮮に覚えています。あれから 5 年で、今回の議決に至ったこととなります。ここ 2 年ほど、会員数の減少が加速しており、会計上の問題からも合流を速やかに行う事を決意いたしました。今後は、日本植物分類学会という新しい場で、「植物系統分類学、植物地理学、植物生態学および植物自然史関連分野の進歩普及を図り」という目的を果たしていくこととなります。幹事会では、4 月の合流までに、今までにアンケート等で頂いた意見を改めて精査し、本学会の会員の希望を日本植物分類学会の方に要望していきたいと考えています。ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 引用文献

綿野泰行. 2016. 植物地理・分類学会の将来構想アンケートの結果と今後の対応. 植物地理・分類研究 64: 55-56.

## 植物地理・分類研究からのお知らせ

植物地理・分類研究 編集委員会

先に会長から報告の通り、植物地理・分類学会2017年度大会にて、2018年4月から本学会が日本植物分類学会へ合流することが承認されました。「植物地理・分類研究」は、1952年に「北陸の植物」として創刊して以来、会員の皆様のご支援のもと、65年もの長きにわたり刊行を続けてまいりましたが、合流後は日本植物分類学会の和文誌として再出発することを検討中です。

つきましては、植物地理・分類学会が発行する「植物地理・分類研究」といたしましては、2017年7月31日を持ちまして、皆様からの投稿受付を一旦休止いたします。新しい“植物地理・分類研究”の投稿方法などについて、現在、日本植物分類学会と協議を進めております。日本植物分類学会が発行する“植物地理・分類研究”への投稿開始時期につきましては、近日中に植物地理・分類学会ホームページでお知らせする予定です。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

### **Important Notice from the Editorial Board for the Journal of Phytogeography and Taxonomy**

The Journal of Phytogeography and Taxonomy (JPT) has been published for 65 years since this journal was established as “the Hokuriku Journal of Botany” in 1952, with kind support from all. The Society for the Study of Phytogeography and Taxonomy (SSPT) has decided that SSPT will merge to the Japanese Society for Plant Systematics (JSPS) from April 2018, as the president stated above. Upon the incorporation, JPT will restart as a new journal published by JSPS, although we hope the name which you might be familiar with will be retained.

JPT will not accept a new submission of manuscript for a while from July 31, 2017 to prepare for a launch of the new journal. We are now discussing on submission guideline for the new “JPT” with JSPS. We will reopen a new submission as soon as we fix the new guideline. Any updates will be announced on our website. Thank you in advance for your understanding and cooperation.

## 2016年度会計報告 (2016年4月1日～2017年3月31日)

## ○植物地理・分類学会

収入 (A)	1,805,228円	支出 (B)	1,875,141円
会費	1,698,000	雑誌印刷費 (63-2, 64-1)	1,339,080
バックナンバー売上	9,500	雑誌送料 (63-2, 64-1)	97,840
利息	32	通信費	45,069
雑収入	1,296	英文校閲費 (2016)	0
総会参加費等	20,400	編集補助費	50,000
寄付	76,000	庶務事務費	97,787 (内訳)
		アルバイト (発送作業等)	16,000
		文具等	4,704
		封筒印刷費	44,231
		雑誌封入発送代行	20,500
		雑支出	12,352
		ニュースレター送料	60,437
		会議費	136,000
		自然史学会連合負担金	20,000
		サーバーレンタル代	0
		総会関係	
		運営費	16,928
		会場アルバイト	12,000

差引 (A - B) △ 69,913 円

次年度への繰越金 (前年度繰越金 761,977 + △ 69,913) 692,064 円

## ○植物地理・分類学会後援会

収入 (A)	0円	支出 (B)	112,336円
剰金	0	選考会議費	36,000
前年度繰越金	600,596	授賞金	50,000
		受賞者旅費	26,000
		大会用消耗品	336

差引 (A - B) △ 112,336 円 (次年度への繰越金)

次年度への繰越金 (前年度繰越金 600,596 + △ 112,336) 488,260 円

## 新入会員 (2016年5月～2017年4月)

5月11日	横山 茂	〒113-0022	東京都文京区千駄木1-22-32
6月30日	柳原 康希	〒606-0021	京都市左京区岩倉忠在地町35-1セジュールロゼット101号室
11月26日	武田 眞一	〒020-0147	盛岡市大館町23-26
4月12日	上嶋 智大	〒920-1192	金沢市角間町 金沢大学大学院 自然科学研究科 自然システム学 専攻 生命システムコース
4月23日	小松 美晴	〒334-0015	埼玉県川口市市鳩ヶ谷緑町1-5-17

## 退会会員 (2016年5月～2017年4月)

実吉智香子	〒098-2943	北海道天塩郡幌延町字間寒別131	北大宿舍2
南家 明	〒694-0223	島根県大田市三瓶町池田208-2	
大村 敏朗	〒420-0866	静岡市葵区西草深町19-17	(死去)
亀井 裕幸	〒114-0002	東京都北区王子5-2-2-1443	(死去)
内藤 俊彦	〒981-0935	仙台市青葉区三条町14-11	(死去)
黒川 康嘉	〒761-0104	香川県高松市高松町1937-4	
斎藤 芳夫	〒912-0081	大野市元町1-7	
高田 眞一	〒719-2342	高梁市成羽町中野2937	
高橋 秀男	〒247-0009	横浜市栄区鍛冶ヶ谷2-8-8	
戸谷 彌生	〒381-0043	長野市吉田3-24-15	
山田 直樹	〒464-0856	名古屋市千種区吹上二丁目2-14	
福嶋 司	〒185-0002	東京都国分寺市東戸倉2-24-66	
落石 秀行	〒811-0116	福岡県糟屋郡新宮町大字湊294	
小林 修一	〒187-0043	小平市学園東町3-19-14	
眞崎 博	〒744-0002	山口県下松市上豊井万福寺	
福田 達男	〒228-8555	相模原市北里1-15-1	北里大学薬学部附属薬用植物園
下田 路子	〒417-0801	富士市大淵325	常葉大学社会環境学部

## 住所・氏名変更及び訂正 (2016年5月～2017年4月)

池上 宙志	〒453-0044	愛知県名古屋市千種区鳥居通4-16	第2鳥居ビル2階 (株)環境アセスメントセンター東海営業所 → 〒451-0035 愛知県名古屋市西区浅間2-6-5 ロイヤルシティ浅間5B
一野 香織	〒849-0111	佐賀県三養基郡みやき町白壁4361-1	→ 中村 香織 〒839-1408 福岡県うきは市浮羽町山北2035
助野実樹郎	〒001-0011	札幌市北区北十一条西3丁目2番23-1028号	→ 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条2丁目1-4-209
小原 静	〒861-2233	熊本県上益城郡益城町惣領1482-1	→ 〒861-2233 熊本県上益城郡益城町惣領1458-4
濱田 展也	〒722-0043	広島県尾道市東久保町12-1	尾道東高等学校内 → 〒715-0024 岡山県井原市高屋町三丁目19-12
広木 詔三	〒441-8522	豊橋市町畑町1-1	愛知大学国際コミュニケーション学部 → 〒468-0066 名古屋市天白区元八事1-227 ライオンズマンション元八事第二401号
佐藤 謙	〒062-8605	札幌市豊平区旭町4丁目1-40	北海学園大学 → 〒004-0002 札幌市厚別区厚別東2条5丁目17-22

## 植物地理・分類学会 2017 年度大会

植物地理・分類学会 2017 年度大会は 5 月 27 日（土）、28 日（日）に石川県金沢市において、山田敏弘氏、中野真理子氏と古池 博氏にお世話いただき開催された。1 日目は金沢大学サテライト・プラザを会場として、総会、学会賞授賞式、受賞記念講演、一般講演を行った。2 日目は医王山にてエクスカージョンを実施した。総会参加者 37 名大会参加者は 40 名、エクスカージョン参加者は 22 名であった。

会場を提供いただいた金沢大学サテライト・プラザは、以前にも大会を開催した場所で、金沢市の町中で交通の便がよく、とても好適な会場であった。

まず、総会が 13 時より開会され、綿野会長から 2017 年度の大会開催地について、当初、千葉県鴨川市を予定していたが、学会合流に関する等の重要案件があるため、学会発祥の地である金沢市に変更されたこと挨拶があった。その後、議長に福島大学の黒沢高秀氏を選出し、議事に入った。最初に、2016 年度活動報告として、寺田庶務幹事から以下の事項について報告があった。

- ・会員状況（2016 年度末）：個人 360 名（うち学生 20 名、特別 5 名）、14 団体
  - \* 2015 年度末：個人 430 名（うち学生 23 名、特別 6 名）、20 団体
- ・大会開催：2016 年 6 月 4 日（直江津学びの交流館 イベントホール）
- ・エクスカージョン実施：2016 年 6 月 5 日、上越市の植物（柿崎海岸、米山山麓）
- ・学会賞表彰：2016 年度学会賞授与（学会賞：勝山輝男氏）
- ・2017 年度学会賞選考委員会開催：2017 年 2 月 9 日
  - 選考委員（加藤雅啓氏（委員長）、中田政司氏、永益英寿氏、五百川 裕氏、山田敏弘氏）
- ・会誌発行：植物地理・分類研究 vol.64.no.1, 2
- ・総会開催：2016 年 6 月 4 日（直江津学びの交流館 イベントホール）
- ・評議員会開催：同上
- ・臨時評議員会開催：2017 年 2 月 9 日、（金沢勤労者プラザ）
- ・幹事会開催：2016 年 3 月 30 日（水）（金沢勤労者プラザ）、  
6 月 4 日（土）（直江津学びの交流館）
  - 学会運営に関わる協議はメールにより随時実施
- ・学会の将来に関するアンケート実施（2016 年 4 月 13 日～5 月 15 日）
- ・学会合流に向けたアンケート実施（2017 年 1 月 17 日～2 月 28 日）
- ・日本植物分類学会と合流に関する会合を実施：
  - 2016 年 11 月 30 日（キャンパスプラザ京都）、2017 年 3 月 9 日（京都大学）
- ・その他
  - ・日本学術会議協力学術研究団体変更届提出（6 月）
  - ・郵便事業株式会社郵便審査事務センター発行人変更届（6 月）
  - ・「学会名鑑」（日本学術会議・日本学術協力財団・国立研究開発法人）の更新・訂正（10 月）→2 月 28 日公開
  - ・各種受賞候補者推薦依頼
    - 日本学術振興会賞、日本学術振興会育志賞、国際生物学賞
  - ・転載許可 2 件

続いて、中野会計幹事から 2016 年度会計報告（本誌別ページ掲載）が配布資料に基づいて行われ、本多監査員より監査報告があった。参加者の拍手により活動報告と会計報告は承認された。

次に、日本植物分類学会との合流に関する議事に入った。まず、綿野会長から、これまでの経緯、今年 1 月 17 日から 2 月 28 日までに行われたアンケート結果、両学会の執行部同士の打ち合わせの合意事項等の報告があった。報告後、この内容に関する質問、意見等を聞いた後、合流に関する議論を行なった。十分な議論の後、黒沢議長から重要案件のため、会則第 10 条の「総会での議決は出席者の過半数の賛成を以て行う。ただし会則の改正には出席者の 2/3 以上の賛成を要する。」に準じ、出席者の 2/3 以上をもって決議する旨を説明があった後、決議に入った。会場を封鎖し、反対、賛成、棄権の順に慎重に得票数を数えた。有効得票数 36 名（議長を除く）のうち、反対 0 名、賛成 36 名、棄権 0 名の満場一致で、2018 年度に日本植物分類学会との合流することが議決された。

合流することが決議されたことによって、2017年度の事業計画について、寺田庶務幹事から以下の事項について述べられた。

- ・日本植物分類学会との合流に関する意見交換会開催：2017年4月23日（日）（金沢勤労者プラザ）
- ・大会開催：2017年5月27日（金沢大学サテライト・プラザ（金沢市西町三番丁16番地））
- ・エクスカージョン実施：2015年5月28日，医王山
- ・学会表彰：2017年度学会賞授与（学会賞：古池 博氏）  
選考委員（加藤雅啓氏（委員長），中田政司氏，永益英寿氏，五百川 裕氏，山田敏弘氏）
- ・会誌発行：植物地理・分類研究 vol.65. no.1, 2
- ・総会開催：2017年5月27日（金沢大学サテライト・プラザ）
- ・評議員会開催：5月27日（金沢大学サテライト・プラザ）
- ・幹事会開催：2017年4月 1日（金沢勤労者プラザ），  
5月27日（金沢大学サテライト・プラザ）

学会運営に関わる協議はメールにより随時実施

- ・日本植物分類学会第17回大会シンポジウムの共催を打診（2018年3月）

途中、山田編集委員長から、合流へ決議されたことによって、これからの論文原稿の投稿の受付は停止し、日本植物分類学会の会誌の方に掲載されるとの説明があった。

次に、中野会計幹事から2017年度予算案が述べられた。予算案の段階で、一般会計が数万円の赤字になることが報告された。そのため、続いて、後援会の残金の使途についての議事に入り、綿野会長から一般会計が赤字になった際、後援会の残金を使用したいとの説明がなされた。さらに、合流後の後援会の残金に関しては、日本の植物分類学の顕彰事業に使用してもらう形で、日本植物分類学会の特別会計に入れてもらうように協議するとの説明がなされた。この2つの案件についても拍手で承認された。

以上をもって、総会を閉会した。

続いて、2017年度の学会賞授賞式が行われ、加藤選考委員長より、学会賞を古池 博氏に授与することが、氏の業績とともに報告された（本誌別ページ参照）。続いて、会長より賞状と副賞の贈呈があり、その後、古池氏の受賞記念講演「新しい植物像の探求」を拝聴した。

続いて、一般講演が行われた。座長は高橋幹事および谷幹事が務めた。演者と演題は以下の通りである。今回は口頭発表が7件、ポスター発表が2件で、18時過ぎまで、各講演に対して活発な質疑が交わされた。

口頭発表

1. 上嶋智大（金沢大・院・自然科学・自然システム）・堤 千絵（科博・植物）・小藤累美子・山田敏弘（金沢大・理工・自然システム）：葉緑体の温度適性がレガリスゼンマイの分布に与える影響
2. 小松美晴（千葉大・理），鈴木武（兵庫県博），綿野泰行（千葉大・理）：日本産アカウキクサ科オオアカウキクサ節植物の系統と分布
3. 柳沢かさね・谷 友和（上越教育大・理科）：フキの地下部構造と花茎形成様式
4. 広木詔三（元 愛知大）：フモトミズナラの分布・生態・起源について
5. 荒瀬輝夫・増田 遥（信州大学農学部）：長野県に自生するヤマアジサイの装飾花と葉の地理的変異
6. 藤田淳一・大塚孝一・星山耕一（長野県植物研究会）・尾関雅章・石田祐子（長野県環境保全研究所）：長野県植物誌改訂に向けた植物目録編纂
7. 加藤雅啓（科博・植物）：溪流沿い植物とカワゴケソウの比較

ポスター発表

8. 赤井賢成（沖縄美ら島財団）：福井県RDB更新作業への協力で明らかになった福井県の植物相に係る新知見
9. 中田政司（(公社)日本植物園協会植物多様性保全委員会外来種対策分科会）：日本植物園協会が策定した外来種の導入・栽培に関するガイドラインについて

一般講演終了後、金沢21世紀美術館内のFusion21（フュージョン21）に会場を移し、19時より懇親会が開催された。参加者は21名であった。乾杯の発声は、庶務幹事の私がさせていただいた。日本植物分類学会への合流に関して、本総会にて決議されたことから、本学会としては最後の懇親会になることと、日本植物分類学会への合流は、日本の植物分類学の発展のための大事業であることを述べ、乾杯を行なった。会場はきれいでおしゃれなレストランで、レストラン名のFusion（融合）のとおり、21名が融合しあい、本学会の最後

の懇親会としてふさわしい会となった。美味しい料理とお酒を片手に思い思いに語り合い、あっという間に2時間が過ぎ、前庶務幹事の五百川 裕氏による一本締めで閉会した。

(庶務幹事 寺田和雄)



学会賞受賞記念講演を行う古池博氏

## 2017年度植物地理・分類学会賞受賞者の選考について

学会賞の応募件数1件（古池博氏〔推薦者〕綿野泰行氏・寺田和雄氏）に関して、学会賞選考委員会による厳正な審査の結果、全会一致で下記のように決定した。

2017年度植物地理・分類学会賞  
受賞者 古池 博 氏

古池氏は、金沢大学理学部の正宗巖敬氏と里見信生氏の元で学ばれ、大学修了後、金沢大学理学部助手を経て、金城高校教諭に任用された。現在は特定非営利活動法人石川県自然史センター理事長を務めている。この間60年以上にわたる調査研究によって、石川県など北陸を中心とした地域の植物相と植生を解明し、この研究分野の発展に尽くした。国や地域の自然保護、環境保全などの各種委員会の委員や委員長を務めたほか、研究会を立ち上げるなどして多大な社会貢献を果たした。主なものだけでも、稀少野生動植物保存推進員（環境庁、環境省）、自然環境保全基礎調査植生調査北陸ブロック統括委員（環境省自然環境局生物多様性センター）、環境省レッドリスト/レッドデータブック調査主任調査員（環境省生物多様性センター）、白山生態系維持回復事業専門委員会委員（環境省中部地方事務所）、河川水辺の国勢調査アドバイザー（国土交通省北陸地方建設局）、石川県環境審議会委員（石川県）、石川県希少種保全推進員（石川県）などがあげられる。とりわけ、石川県に自然史博物館をつくる活動を行って、石川県立自然史資料館の設立に尽力した。並行して、本学会の「植物地理・分類研究」創刊時から編集委員（1979年～2009年）、本学会の幹事（1990年～2005年）、評議員（2006年～2017年）として、学会設立から今日に至るまで本学会の発展に多方面で貢献してきた。

以上のように、古池氏は、北陸の植物相と植生研究、社会活動、本学会の活動運営において極めて重大な貢献を果たした。これらから、氏は郷土植物学者の鑑であり、学会賞を授賞するのにふさわしいと判断した。

2017年2月10日  
植物地理・分類学会賞選考委員会

## 2016 年度大会 エクスカーション参加記

2016 年度 6 月 5 日のエクスカーションは、新潟県上越市の柿崎海岸と米山山麓で行われた。梅雨入りが近く、空模様が心配されていたが、当日は初夏の日差しの下さわやかな風のふく絶好のエクスカーション日和となった。

柿崎中央海水浴場に集合した参加者総勢 34 名は、7 台の車に分乗して第一の観察場所、柿崎海岸へと向かった。海岸に到着したのは午前 10 時頃で、偶然居合わせた市の環境科職員の方から海岸についてのお話を聞くことができた。柿崎海岸は平成 22 年 3 月に保全地域の第 1 号として指定を受けた地域で、人工物があまりなく、広範囲にわたって砂浜が続く環境は新潟県内でも貴重だそうだ。

私の目を最初に引いたのは、職員の方の話を聞く傍らに咲いていた鮮やかなピンク色の花であった。ハマナスである。大きく目立つ花の周りは、クマバチをはじめとする訪花者たちでにぎわっていた。

本格的な観察場所はそこから少し砂の丘を登ったところだった。先行するベテランの先生方がその向こう側の景色を見て感嘆の声をあげるの、何が見えるのかと期待しながら砂の坂を上っていった。上り終えて開けた視界に映ったのは、足元から一面に広がる白い花畑だった。聞くとハマボウフウの群落で、ここまで大きな集団は珍しいとのことだった。



一面に広がるハマボウフウの群落

このフィールドでは、海側から陸側にかけての植物種の変遷を体感するという素晴らしい経験ができた。海側から植物群落に入ると、まず目につくのはハマニガナ、ハマヒルガオ、コウボウムギ、ハマゴウといった背の低い草本だ。少し進んで砂地に占める緑の割合が高くなってくると、ハマエンドウやハマボウフウ、ネナシカズラが観察できた。さらに陸側に進むと、アナマスミレやカワラマツバ、イソスミレ、ウンランが葉を広げていた。その先は単子葉の背の高い草本が混じるようになり、コウボウシバ、スイバ、ヒメスイバ、ナミキソウ、ハマハタザオ、ハマアオスゲ、カヤツリグサ、オオウシノケグサ、マンテマ、ハマゼリ、アオツツラフジなどが見られた。蔓性木本のツルウメや、落葉低木のアキグミも生えていた。

海岸での観察で最も参加者の注目を集めたのは、一見地味なコウボウムギだった。コウボウムギは、雌雄異株の植物として知られている。ところがよく観察すると、上部が雄小穂、下部が雌小穂の小穂を持つ株が散見された。これはどういうことか、雌雄異株ではないのかと騒ぎになり、本当に 1 つの株に 1 つの性しか持たないのかを確かめるために根を掘り返す作業が始まった。数株を掘り返した結果、完全な雄小穂と完全な雌小穂が混在している株は見つからなかったが、上部が雄小穂、下部が雌小穂の形質を持つ小穂と、完全な雄小穂の両方を持つ株が発見された。これによりコウボウムギが雌雄異株であるという認識は揺るがされることとなった。コウボウムギの生態について議論したり作業を行ったりしているときの先生方は子供のような熱中ぶりで、植物への興味の強さと愛情の深さが感じられた。私も一緒になってコウボウムギを観察し、生物の生態を知ることで新しい発見につなげることの魅力に引き込まれた。



上部が雄小穂、下部が雌小穂のコウボウムギの小穂



木漏れ日の射す新緑のブナ林

1時間ほどして場所を移動し、12時ごろに第二の観察場所である米山の山麓に到着した。登山道は整備されていたが、急な階段が続いた。しばらく登ると少し開けた場所に出て、道を外れたところに沼地があった。すると新潟大の志賀先生が沼地へ入っていき、長い棒を使って植物を採取してきた。フトヒルムシロという水草で、イノシシの菟場のような沼地によく生育するという。水中のpHが低い状態でないと光合成ができないという珍しい生態をもつ植物だ。確かに、言われてみれば沼の中にはほかに目立った植物は観察できず、厳しい環境であることが推測できた。周辺にはほかに、ミズバショウやヒロハテンナンショウ、オオカメノキなどの植物がみられた。

さらに登山道をいくと、道の脇に“やくしの杜”とかかれた看板が立っていた。この辺りまで来ると典型的なブナ林が広がっており、葉脈が並行で、ひし形をしているブナの葉の特徴を教えていただいた。足元にはギンリョウソウ、オオイワカガミ、キンラン等の草本が見られた。またユキツバキ、ヒメモチ、ヤマツツジ、クロモジ、ガクウラジロヨウラク等の低木もみられた。開けた場所で地面に座って昼食をとっていると、ブナの新緑から木漏れ日が射し、さわやかな風を感じることができた。この場所にはウ

ルシが生えており、私が気づかずに触ろうとすると、かぶれるよ、と注意していただいた。

ここからも少し登山道を進んだが、これ以降植生は変わらず、集合時間に間に合うように引き返した。集合場所まで速足で下山したのち、勝山さんによるスゲの分類が行われた。私の目では2、3種を見分けるのが精いっぱいだったが、やはり勝山さんの分類ではより多くの種が見出されていた。

初めて本格的なエクスカージョンに参加し、野外で実際に植物を観察すること、そしてそこで得た知識やわからなかったことを文献などから学び、また野外で確かめることの大切さ・楽しさを知った1日だった。

(千葉大学大学院・小松美晴)



勝山さんによるスゲ属の分類とそれに聞き入る参加者の方々

## 植物地理・分類学会 会則

- 第1条 本会は、植物地理・分類学会と称する。
- 第2条 本会は、植物系統分類学、植物地理学、植物生態学および植物自然史関連分野の進歩普及を図り、あわせて会員相互の連絡および親睦を図ることを目的とする。
- 第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 研究会、講演会、シンポジウム、観察会等を開催する。
  2. 会誌その他の出版物を刊行する。会誌「植物地理・分類研究」は原則として年2回発行する。
  3. 植物系統分類学、植物地理学、植物生態学および植物自然史関連分野に関係した調査、研究の業績、または教育的な貢献が著しい会員を表彰する。
- 第4条 本会の事業年度は4月1日に始まり3月31日に終わる。
- 第5条 会員は普通会員、学生会員、団体会員、賛助会員および特別会員とする。
1. 普通会員、学生会員、団体会員および賛助会員は、本会の趣旨に賛同し、それぞれ所定の会費を納める個人または団体。
  2. 特別会員は、本会の発展に著しい功績のあった個人で、幹事会の議を経て会長が推薦し総会の承認を受けた者。特別会員は会費の納入を要しない。
- 第6条 普通会員、学生会員、団体会員および賛助会員は、会費を前納（前年度の3月末日まで）しなければならない。なお、納入された会費は返付しない。
- 第7条 会員は、会誌の配布を受け、あわせて会誌に投稿すること、ニュースレターの配布を受けること、本会主催の諸会合に出席することができる。
- 第8条 新しく会員になろうとするものは、当年度の会費を添えて本会事務局に申し込むこと。退会する場合は本会事務局に届け出なければならない。会費に滞納があるときは、未納分を納めなければならない。
- 第9条 会員が次の各項に該当するときは、幹事会の議決を経て次の措置をとることができる。
1. 本会の名誉を著しく傷つけ、または本会の目的に反する行為のあったときは、除名する。
  2. 会費を2年間滞納したときは、除籍する。
- 第10条 本会の最高決定機関として総会を置く。総会は毎年1回開催する。総会での議決は出席者の過半数の賛成を以て行う。ただし会則の改正には出席者の2/3以上の賛成を要する。
- 第11条 本会に幹事会を置く。幹事会は本会の運営を行う。幹事は会長、庶務幹事、会計幹事、編集委員長各1名、およびその他若干名とし、総会において選出する。これらの役員の任期は2年とする。
- 第12条 本会に編集委員会を置く。編集委員会は編集委員長、主任編集委員および編集委員で構成し、編集委員長がこれを代表する。主任編集委員1名、編集委員は若干名とし、編集委員長が幹事会にはかって委嘱する。委員の任期は2年とする。
- 第13条 本会に評議員会を置く。評議員会は会長の諮問に応じ、会務の重要事項を審議する。評議員会は総会において選出された評議員若干名で構成し、任期は2年とする。
- 第14条 本会に監査員を2名置く。任期は2年とし、総会において選出する。
- 第15条 本会の会長は、必要に応じて、特定の事項を審議する委員会を設けることができる。
- 第16条 この会則についての細則は、総会の議決を経て、別に定める。
- 付則 1. この規約は1990年6月2日から施行する。
- 付則 2. 第12条の規定に関わらず会長は編集委員長を兼ねることができる。
- 付則 3. この規約は2001年6月2日から施行する。
- 付則 4. この規約は2002年6月1日から施行する。
- 付則 5. この規約は2005年6月4日から施行する。ただし2005年度は、第4条の規定に関わらず事業年度は2005年1月1日から2006年3月31日とする。
- 付則 6. この規約は2013年6月1日から施行する。

## 植物地理・分類学会からのご案内

### 1. 雑誌の購読, バックナンバー, 当会発行書籍に関するお問い合わせ

会計幹事 中野真理子

(〒920-1147 石川県金沢市銚子町441番地 石川県立自然史資料館)

TEL 076-229-3450(代表) / FAX 076-229-3460 / E-mail : nakano@n-muse-ishikawa.or.jp

### 2. 住所変更など会員の異動に関するご連絡

会計幹事 中野真理子

(〒920-1147 石川県金沢市銚子町441番地 石川県立自然史資料館)

TEL 076-229-3450(代表) / FAX 076-229-3460 / E-mail : nakano@n-muse-ishikawa.or.jp

### 3. 引用許可申請に関するお問合せ

本会誌各巻2号に掲載の様式で「引用許可申請書」を作成し、許可を得てください。

申請書送付先: 庶務幹事 寺田 和雄

(〒911-8601 福井県勝山市村岡町寺尾51-11 福井県立恐竜博物館 気付)

TEL 0779-88-0001 / E-mail : k-terada@dinosaur.pref.fukui.jp

### 4. 投稿に関するお問い合わせ

編集委員長 山田 敏弘

(〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学理工研究域自然システム学系)

TEL & FAX 076-264-6207 / E-mail : nymphaea@staff.kanazawa-u.ac.jp

### 5. その他のお問合せ

庶務幹事 寺田 和雄

(〒911-8601 福井県勝山市村岡町寺尾51-11 福井県立恐竜博物館 気付)

TEL 0779-88-0001 / E-mail : k-terada@dinosaur.pref.fukui.jp

## 転載許可申請書について

本会誌に掲載された図や写真等の他の印刷物での引用（使用）を希望する場合は、以下のような様式で「引用許可申請書」を作成し、学会の庶務幹事宛（〒911-8601 福井県勝山市村岡町寺尾51-11 福井県立恐竜博物館 植物地理・分類学会 庶務幹事 寺田 和雄）に郵送して、許可を得てください。用紙はA4を使用し、使用先の出版物等の内容は以下の様式の括弧内の事項を参考に、できるだけ詳しく記載してください。

.....

### 転載許可申請書

植物地理・分類学会 会長殿

年 月 日

貴学会発行の「植物地理・分類研究」に掲載の図表等を転載したく、その許可をお願いいたします。

申請者の住所

氏名

印

1) 使用する「植物地理・分類研究」の巻、頁、著者名、題目、図表の番号

2) 著者の許可の有無

(著者の許可が必要です。許可を得ていない場合は、その理由を記してください。例：連絡がつかない、著者死亡等)

3) 使用先の出版物等の内容

(雑誌、本、パンフレット等に使用する場合は、発行元、発行予定数、有料・無料の別等を書いてください。)